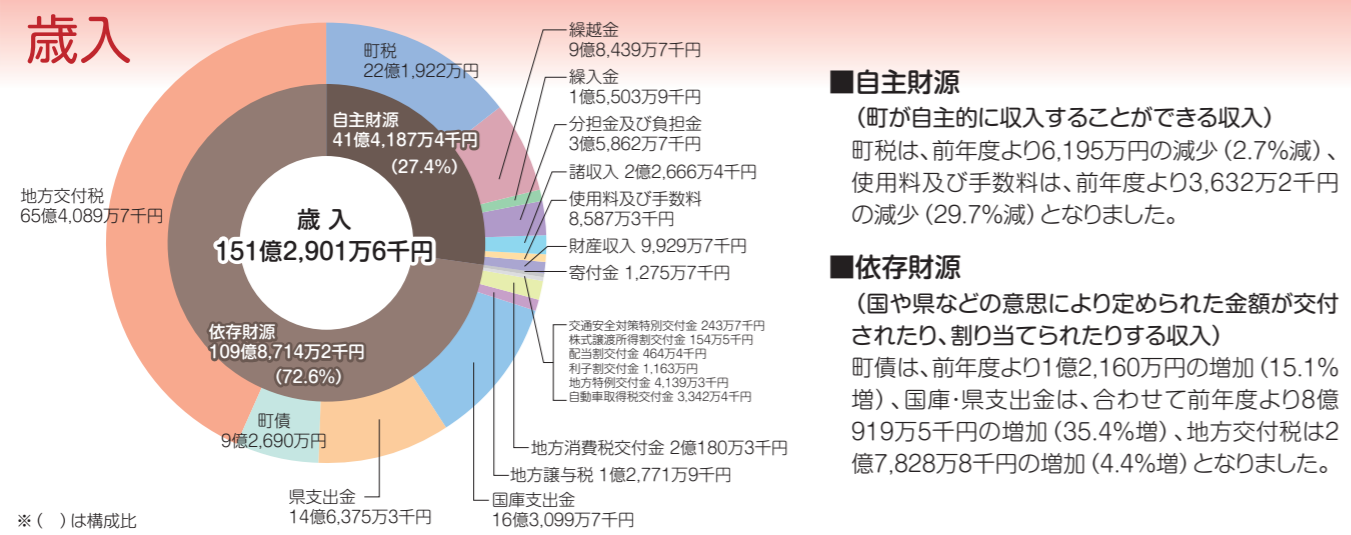


一般会計決算の状況

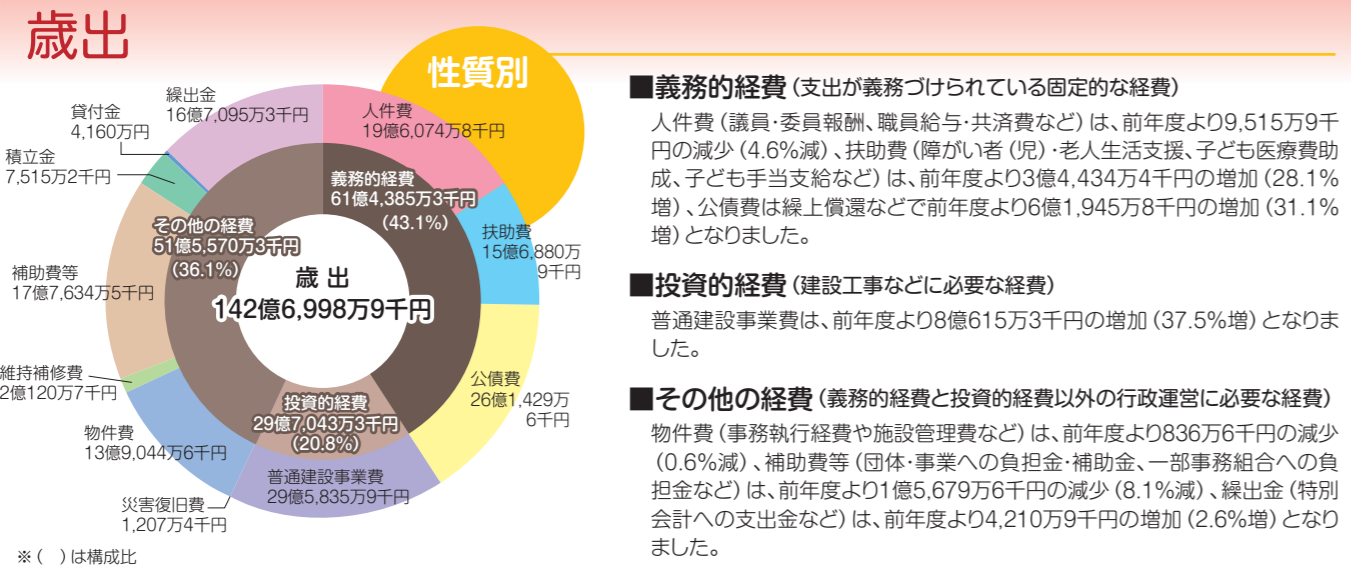
歳入総額 **151億円**

歳出総額 **143億円**

- 決算規模** 決算規模は、歳入、歳出ともに前年度決算額を上回りました。
- 歳入** 歳入総額は、151億2,901万6千円で、地方交付税や国庫・県支出金の増加などにより、前年度を12億1,096万7千円上回り、8.7%の増となりました。
- 歳出** 歳出総額は、142億6,998万9千円で、普通建設事業費や公債費の増加などにより、前年度を13億3,633万7千円上回り、10.3%の増となりました。



- 自主財源**
(町が自主的に収入することができる収入)
町税は、前年度より6,195万円の減少(2.7%減)、使用料及び手数料は、前年度より3,632万2千円の減少(29.7%減)となりました。
- 依存財源**
(国や県などの意思により定められた金額が交付されたり、割り当てられたりする収入)
町債は、前年度より1億2,160万円の増加(15.1%増)、国庫・県支出金は、合わせて前年度より8億919万5千円の増加(35.4%増)、地方交付税は2億7,828万8千円の増加(4.4%増)となりました。



- 義務的経費**(支出が義務づけられている固定的な経費)
人件費(議員・委員報酬、職員給与・共済費など)は、前年度より9,515万9千円の減少(4.6%減)、扶助費(障がい者(児)・老人生活支援、子ども医療費助成、子ども手当支給など)は、前年度より3億4,434万4千円の増加(28.1%増)、公債費は繰上償還などで前年度より6億1,945万8千円の増加(31.1%増)となりました。
- 投資的経費**(建設工事などに必要な経費)
普通建設事業費は、前年度より8億615万3千円の増加(37.5%増)となりました。
- その他の経費**(義務的経費と投資的経費以外の行政運営に必要な経費)
物件費(事務執行経費や施設管理費など)は、前年度より836万6千円の減少(0.6%減)、補助費等(団体・事業への負担金・補助金、一部事務組合への負担金など)は、前年度より1億5,679万6千円の減少(8.1%減)、繰出金(特別会計への支出金など)は、前年度より4,210万9千円の増加(2.6%増)となりました。

どんなことに使われたの?

目的別

- 公債費** 借金(町債)の返済に 26億4,511万5千円
- 民生費** 高齢者・障がい者(児)福祉、子育て支援などに 29億7,889万5千円
- 教育費** 小・中学校教育、社会教育、スポーツ振興などに 17億3,637万9千円
- 総務費** コミュニティセンターの整備、情報通信網、公共交通、交通安全対策などに 17億9,053万8千円
- 土木費** 道路・河川改良、住宅管理などに 13億9,298万1千円
- 農林水産業費** 主要作物の振興、農道・林道整備、漁港改良などに 14億347万円
- 衛生費** 健康づくり、母子健診、ごみ処理などに 8億5,165万9千円
- 商工費** 商工業・観光振興などに 5億7,803万円
- 消防費** 消防・防災対策などに 6億5,117万4千円
- その他** 議会運営、基金積立などに 2億4,174万8千円

平成22年度

わたしたちのまちの

決算報告

平成22年度に町税や補助金などが「どのくらい入り」、「どのように活かされたか」をまとめた一般会計、特別会計及び企業会計の決算の概要をお知らせします。



このたび町議会の認定に付した平成22年度の決算は、簡易水道事業特別会計の配水管布設工事をめぐる談合事件を理由に不認定となりました。これを重く受け止め、事件の事実関係や経過、制度上の問題点などを明らかにするため、外部委員を含めた調査委員会を設置し、再発防止と信頼回復に取り組みます。町が発注した工事をめぐり談合事件が起きたことにつきまして、町民の皆さまに深くお詫び申し上げます。

歳出総額 222億円

平成22年度各会計の決算状況

(単位：千円)

会計	区分	歳入決算額		歳出決算額		歳入歳出 差引残額 (A) - (B)	
		(A)	対前年度比 (%)	(B)	対前年度比 (%)		
一般会計		15,129,016	8.7	14,269,989	10.3	859,027	
特別会計	国民健康保険事業	2,212,144	1.2	2,100,040	▲ 0.9	112,104	
	老人保健事業	5,147	▲ 52.2	5,147	▲ 52.2	0	
	介護保険事業	2,041,350	3.8	2,020,749	4.4	20,601	
	後期高齢者医療事業	233,030	2.5	232,598	4.3	432	
	簡易水道事業	608,864	▲ 3.9	603,253	▲ 4.0	5,611	
	公共下水道事業	1,003,532	▲ 11.9	997,748	▲ 11.6	5,784	
	集落排水事業	416,125	▲ 18.9	412,450	▲ 19.2	3,675	
	温泉事業	20,626	▲ 14.8	17,680	▲ 21.3	2,946	
	農林漁業体験実習館事業	33,584	34.2	33,584	34.2	0	
企業会計	上水道事業	収益的収支	262,155	5.3	260,274	5.6	1,881
		資本的収支	7,987	▲ 90.1	109,419	▲ 36.1	▲ 101,432
	国民健康保険病院事業	収益的収支	1,088,801	7.9	1,055,443	5.3	33,358
	資本的収支	43,943	14,846.6	117,015	45.8	▲ 73,072	
合計		23,106,304	4.9	22,235,389	5.4	870,915	

※企業会計における不足額は、損益勘定留保資金で補てんされています。

一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた歳入総額は、前年度より10億7,637万6千円増加(4.9%増)し231億630万4千円、歳出総額は、前年度より11億3,617万5千円増加(5.4%増)し222億3,538万9千円となりました。歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、8億7,091万5千円の黒字となりました。

平成22年度に実施した主な事業

快適で安全に住めるまちづくり

公共交通の確保と利用促進

●地域公共交通活性化事業 [96,599千円]

コミュニティバス「フレンドリー号」の運行、路線バス利用の高齢者と高校生等への運賃補助、路線バス事業者に対する路線維持支援補助、町内公共交通に関する運行や利用実態を調査し、新たに地域公共交通計画を策定

●より安全な道路への改良

●町道改良事業 [141,305千円]

局所的な舗装・側溝の改良工事、危険箇所における災害防除工事の実施

●国道道改良事業 [35,623千円]

国道305号、主要地方道武生米ノ線などの県施工道路改良工事の負担金

●社会資本整備総合交付金事業 [136,734千円]

町道宝泉寺グラウンド線・気比庄中学校線・北岩倉線の道路改良（歩道整備）工事、町道朝日佐々生線などの舗装修繕工事の実施

●災害時対応の強化

●消防防災施設整備事業 [213,885千円]

災害時に警戒警報などの情報伝達を行うデジタル防災行政無線設備を整備



役場内親局（防災無線室）

●安全で良質な水の供給

●朝日地区簡易水道統合整備事業 [173,313千円]

萩野地区の配水管布設、赤井谷配水ポンプ場の機器設置などにより上水道区域と簡易水道区域を統合

健康で安心して暮らせるまちづくり

●子育て・少子対策の充実

●子ども医療費助成事業 [37,552千円]

小学校3年生までの医療費の一部を助成

●子ども手当支給事業 [388,089千円]

中学校修了までの児童に1人月額13千円を支給

●妊婦・乳幼児健康診査事業 [18,090千円]

県内医療機関において心身の異常を早期に発見するため、妊婦・乳児健診を実施、里帰り出産に伴い県外で受診した健診料金を助成



●保健事業の推進

●特定健康診査等事業 [10,284千円]

40歳～74歳の国民健康保険加入者を対象に、メタボリックシンドロームに着目した健診と保健指導を実施

●医療環境の充実

●高度医療機器整備事業 [44,363千円]

織田病院の全身用X線コンピューター断層撮影装置(CT)を更新

人が輝き交流で満ちあふれるまちづくり

●地域コミュニティの形成

●地域コミュニティ事業 [8,791千円]

朝日・宮崎・越前・織田の各地区で、地区住民や各種団体を構成員とする「地域コミュニティ」の組織づくりを支援するため、地域コミュニティ事務局を設置し、地域コミュニティ交付金を交付

●国際交流の推進

●国際交流事業 [13,505千円]

国際交流協会を中心に「国際交流フェスティバル」を開催、国際交流員を配置し在住外国人との文化交流を推進、国内外の交流都市との児童交流を実施、外国人生活相談員を配置し相談窓口を設置

●学校教育環境の充実

●学校ICT環境整備事業 [58,459千円]

糸生小学校・城崎小学校・四ヶ浦小学校に校内LANを整備

●生涯スポーツの振興

●越前町人工芝ホッケー場整備事業 [172,944千円]

ホッケー競技の環境を充実するため、人工芝ホッケー場において、管理棟・スタンド棟を建設



人工芝ホッケー場管理棟

元気で活力みなぎるまちづくり

●農業の振興

●中山間地域等直接支払制度事業 [38,768千円]

農業生産の条件が不利な地域における農地や農業用施設の保管理、担い手の育成など、集落での取り組みを支援

●水産業の振興

●漁村再生交付金事業 [251,846千円]

米の浦漁港の漁業環境を改善し漁家の経営安定と安全な生活環境確保を図るため、漁港用地造成を実施

個性豊かで誇りのもてるまちづくり

●循環型社会の形成

●リサイクル対策事業 [2,442千円]

生ごみの減量化を図るためコンポストの購入に対し補助、ごみリサイクルを進める団体が実施する資源回収に対し補助

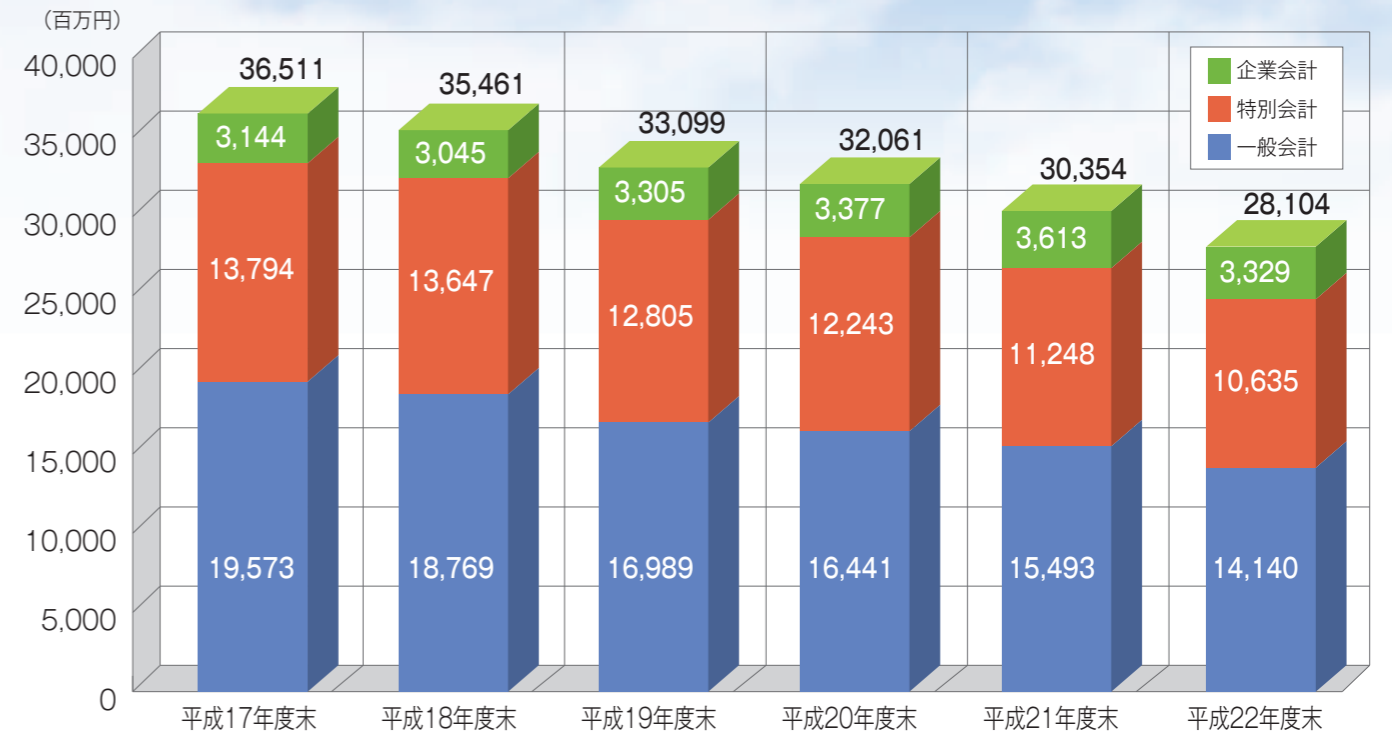
町民に開かれた健全行財政のまちづくり

●コミュニティセンターの整備

●コミュニティセンター建設（改修）事業

【宮崎:377,841千円、越前:254,660千円、織田:10,841千円】地域コミュニティの拠点施設として、宮崎コミュニティセンターを建設、越前コミュニティセンターを改修、織田コミュニティセンター建設工事実施設計を実施

借金(町債)現在高の推移

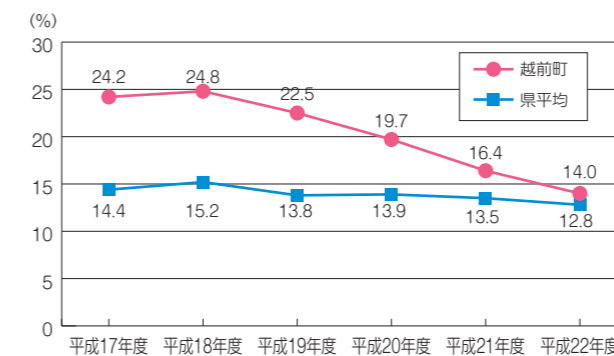


平成22年度末の借金(町債)の現在高は281億363万9千円で、前年度末より22億5,078万7千円減少しています。これは、当年度の返済額に加え、7億3,375万円を繰り上げて返済したことによるものです。

本町では、平成19年2月に策定した「公債費負担適正化計画」に基づき、借金の繰り上げ返済や新たな借金の抑制を計画的に行っており、平成22年度末の借金の現在高は、合併時の平成17年度末と比べ84億700万円減少しています。

財政指標

実質公債費比率 **14.0%**

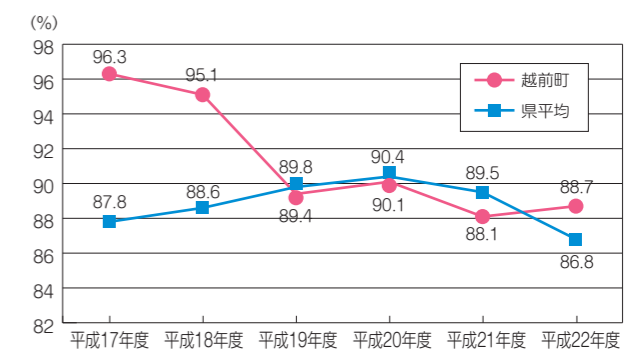


●実質公債費比率が14.0%とは、どういうことですか？

家計に例えれば、平成22年度の給料などの収入が100万円であった場合、そのうち14万円を借金返済に使ったということになります。

実質公債費比率が18%以上の市町村は、新たな借金を借入れる際に、県の許可が必要となります。

経常収支比率 **88.7%**



●経常収支比率が88.7%とは、どういうことですか？

実質公債費比率と同様に、平成22年度の給料などの収入が100万円であった場合、食費や光熱水費・ローン返済など年間必要な支出が88万7千円で、残りが貯蓄や一括返済など、自由に使えるお金ということです。

経常収支比率が80%を超えると財政の弾力性が失われつつあると言われる。